

団体の代表者 様

長野県産業労働部長
(公印省略)

令和 5 年度卓越した技能者の厚生労働大臣表彰について (依頼)

職業能力開発行政の推進につきましては、日頃から格別の御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

この度、厚生労働省人材開発統括官から標記表彰に係る被表彰候補者の推薦依頼がありました。

については、長野県知事が推薦する被表彰候補者としてふさわしいと認められる方が貴下所属にいらっしゃる場合は、下記事項に御留意の上、推薦書類を提出してください。

記

1 提出期限、提出方法

令和 5 年 2 月 9 日 (木) までに推薦書類 (紙で 1 部) を郵送又は直接お持ちください (必着)。

なお、推薦書類は全て、電子データでも御提出ください。電子データは、メール (jinzai2@pref.nagano.lg.jp) か、CD や DVD を紙の推薦書類に同封してお送りください。

2 提出先

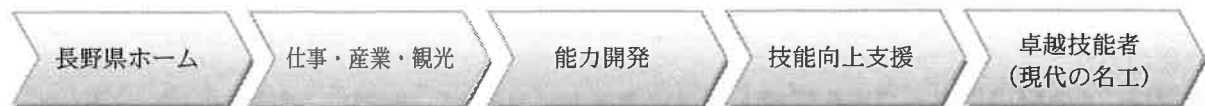
〒380-8570 長野市大字南長野字幅下 692-2
長野県産業労働部 産業人材育成課 人材育成支援係あて

3 実施要領、提出書類等

(1) 提出書類 別紙「提出書類一覧表」参照

(2) 実施要領、推薦書類様式等

次の手順により閲覧してください。



(URL https://www.pref.nagano.lg.jp/jinzai/sangyo/kaihatsu/shien/takuetu_gendai.html)

4 推薦に当たっての留意事項

(1) この表彰制度は、その有する技能が全国を通じて最高水準にある優秀な技能を持った方を表彰する制度ですので、「功労」のみに着目した推薦や調書の作成は控え、その方の持つ「技能」が他の方に比べいかに優れているのか、いかなる理由に基づいて卓越していると判断できるか等を、具体的かつ客観的に検討した上で推薦してください。

(2) 女性の技能者については、積極的に推薦してください。

(3) 経験年数及び年齢の要件は不問とされていますので、若年・中堅の技能者についても積極的に推薦してください。

(4) 基幹的、工業的職種の雇用労働者についても積極的に推薦してください。

(5) 原則として、卓越技能者知事表彰受賞者を推薦してください。ただし、「若年・中堅の技能者の適格者」であれば、必ずしも知事表彰を受けた者でなくとも推薦は可能です。

(6) 技能者的な側面はあるものの、その方の職歴等から総合的に判断して、社会通念上技術者とみなされる方は推薦の対象から除いてください。

(7) 本表彰制度は、現役の技能者を表彰するものであるため、過去において卓越した技能を有していたが、現在は専ら経営管理者となっている方又は団体役員を兼ねている方等で、技能の程度が

低くなっている方など、現役性に欠ける方については推薦しないようにしてください。

- (8) 候補者の推薦に当たっては、過去において禁錮以上の刑に処せられた事実又は他の技能者の模範としてふさわしくない事実がないことをよく確認してください。また、被推薦者が当該事業所の役員である場合においては、当該事業所にも過去1年程度社会的批判を受けるような事実がないことを確認してください。
- (9) なお、推薦後にそれらの事実が発生した場合や明らかになった場合は、速やかに連絡してください。

5 調書作成上の留意事項

- (1) 例年、必要書類の提出漏れ、誤記入等により、後日、提出や訂正を依頼する例がありますので、十分確認してください。
- (2) 書面審査の性質上、調書の記述内容の的確性やわかりやすさが結果を左右することがあるので留意してください。例年、審査委員から指摘が多い事例について厚生労働省より以下のとおり例示がありましたので、記述の際の参考としてください。
 - (ア) 表現が客観性に欠ける
 - ・ 非常に優れている → 他と比較してどう優れているか数値等で表現
 - ・ 短時間で加工できる → 通常3時間かかる加工を1時間でできる等
 - ・ 精度が向上した → 標準公差 $\pm 0\mu\text{mm}$ が $\pm \Delta\mu\text{mm}$ に向上した等
 - (イ) 共同作業による場合、その実績における本人の関わりが不明確
 - グループ作業や大型製品等の場合、本人が関わった部分についても具体的に記載する。
 - (ウ) 技能・功績の実績内容が、技術的要素のみ
 - ハード（機械）やソフトで代替できない本人の技能の高さがわかるよう記載する。
 - (エ) 製品の紹介のみで技能の関与が不明確
 - その製品の製作過程のどこで本人の技能が活かされたか明確にする。
 - (オ) 地場産業における活躍に限定され、技能の相対的レベルが掴みにくい
 - 全国から選定されることから、全国ないし世界レベルでみた場合にどの程度、優れているのか記載する。（地域に限定されるような性質の技能で、全国レベルの評価が難しい場合は、その事情を客観的に記載する。）
- (3) 前年度と同じ被推薦者の場合、調書等の記載内容及び資料が前年度と全く同じものとされている事例が見受けられますが、審査委員に対して被推薦者の功績等をより一層アピールするよう記載内容を工夫してください。

6 表彰の方法

表彰は、東京都内において厚生労働大臣が被表彰者に対して、表彰状、卓越技能章及び褒賞金（目録を手交し、後日口座振込）を授与して行います。（例年、人材開発促進月間の一環として11月に実施）

7 その他

- (1) 被表彰候補者の推薦後、候補者の身分上の変動（人事異動、転職、住所変更等）その他提出書類の記載事項に変更が生じた場合には、速やかに連絡してください。
- (2) 被表彰者となった方の個人情報（氏名、年齢、職業、就業先、技術功績概要及び顔写真）については、行政等の広報誌、ホームページ等に掲載されますので、この旨あらかじめ被推薦者に説明し、同意を得てください。

産業人材育成課人材育成支援係 (課長) 中村 嘉光 (担当) 青木 沙和 住 所 〒380-8570 (住所記載不要) 長野市南長野幅下 692-2 電 話 026-235-7202 (直通) 内線 2999 F A X 026-235-7328 電子メール jinzai2@pref.nagano.lg.jp

(別紙)

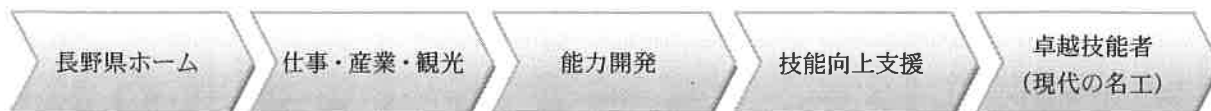
提出書類一覧表

- 推薦書(参考様式)
- 調書(1) 都道府県(様式第3の1) ※紙1部
- 調書(2) 都道府県(") ※紙1部
 - ・ 記載に当たっては、別添「卓越した技能者の表彰の推薦に係る留意事項」の別紙3及び別紙4(調書記載要領等)に留意の上、記載例(P.16～)を参考に記入してください。
 - ・ 調書(1)の「年齢」、「職種」欄は、令和5年11月1日現在で記入してください。
 - ・ 調書(2)の「推薦順位等」及び「推薦者及び推薦理由」欄には何も記入しないでください。
 - ・ 調書(2)の「卓越した技能の概要」欄について、一葉で記入することが困難な場合には、調書(3)を追加して記載してください(追加は最大2葉まで)。
- 作品及び作業風景等の写真(様式4)
 - ・ 写真は、被推薦者の技能レベルや実際の作業風景・作品等が分かる大きくて鮮明なものを可能な限り複数枚(様式10ページ以内)添付してください。
 - ・ 直近1年以内(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)の作業風景(作業中の被推薦者本人の顔が明瞭に認識できるもの)及び同期間における作品・製品等の写真を必ず1枚以上添付してください。また、作業風景や作品の写真において、どのように被推薦者の技能が発揮されているか可能な限り記載してください。
- 専門的・技術的分野に関する用語等の資料(様式5)
 - ・ 調書に記載した専門的・技術的分野に関する用語については、すべてふりがな及び簡単にわかる説明を付してください。
 - ・ 解説が必要な用語が、全提出書類中に1つも無い場合は、「無し」と記入して提出してください。
- 住民票の写し
 - ・ 被推薦者のもの(概ね3ヵ月以内)
- その他の資料
 - ・ 調書における説明の裏付けとなるもので、新聞・雑誌等の記事、説明書・図面、写真、特許、実用新案等、本人の技能功績が端的に、できる限りわかりやすい内容のものを厳選して提出してください。
 - ・ 調書(1)の表彰歴、免許・資格等の取得歴(訓練指導員免許の取得、技能検定委員の委嘱等を含む)、技能検定、高度熟練技術者、ものづくりマイスター、全技連マイスター、技能グランプリ等各種大会の入賞歴等の欄に記入した場合は、当該事跡を明らかにする書類(賞状等)の写しを漏れなく提出してください。

すべての資料は、**必要最小限の分量**としてください。

また、書類はそのままコピー機に通せるものとし、ホチキス止め、冊子やパンフレットそのもの、A3袋とじ形式、付箋やラベルの添付はしないでください。

- ★ 紙の提出は1部のみで結構です(提出方法は、郵送でも直接の持ち込みでも可)。
- ★ 推薦書類は全て、電子データでも御提出ください。電子データはメール(jinzai2@pref.nagano.lg.jp)か、CDやDVDを紙の推薦書類に同封してお送りください。
- ★ 提出された書類等は一切返却いたしません。
- ★ 「技能者表彰実施要領」等は長野県ホームページから電子データをダウンロードすることができます。



(https://www.pref.nagano.lg.jp/jinzai/sangyo/kaihatsu/shien/takuetu_gendai.html)

卓越技能者長野県知事表彰 受賞者名簿 (H30～R4)

職種	年度	氏名	事業所
金属工作機械工	30	赤田 弥壽文	赤田工業株式会社
製図工	30	伊藤 敏	株式会社地図測量
宮大工	30	笠原 秀章	有限会社笠原工務所
箸製造工	30	可児 力一郎	可児工芸
建設機械運転工	30	小須田 一義	株式会社エス・エス・ケイ
味噌製造工	30	小林 秀久	有限会社塩屋醸造
室内装飾工	30	清水 清	株式会社岩野商会
日本料理調理人	30	高木 勇	一茶のこみち 美湯の宿
建築鉄工	30	中嶋 光則	株式会社中島鐵工所
建築大工	30	西野入 誠一	聖工房
清酒製造工	30	平林 和之	宮坂醸造株式会社
時計組立・調整工	30	増田 千登勢	セイコーエプソン株式会社 塩尻事業所
金属研ま工	30	松澤 正明	株式会社松一
畳工	30	宮原 宏	宮原畳店
中華料理調理人	30	山崎 尊夫	日興商事 ホテル日興
レンズ研ま工	30	渡邊 智	長野オリンパス株式会社
かわらぶき工	30	渡邊 猛夫	有限会社ワタナベ瓦店
フラワー装飾師	1	今井 恵子	公益社団法人NFD公認スクール KEIKO花のアトリエ
中華料理調理人	1	大平 宜男	株式会社シセン
ハム・ベーコン・ソーセージ製造工	1	片桐 智企	信州ハム株式会社
造園工	1	小林 武一	小林造園建設
室内装飾工	1	坂口 秋彦	株式会社岩野商会
建築鉄工	1	高木 秀雄	フィット工業株式会社
日本料理調理人	1	田中 弘光	有限会社舞鶴
左官	1	萩原 信宏	萩原左官店
こけらぶき工	1	平田 裕実	有限会社ひらた製板
時計組立・調整工	1	布山 賢二	シチズン時計マニュファクチャリング株式会社 飯田工場
室内装飾工	1	本間 宏次	有限会社本間室内美装
木製家具製造工	1	柳澤 邦夫	有限会社柳沢木工所
味噌製造工	1	山田 芳宏	株式会社よしのや 犀川工場
橋梁塗装工・建築塗装工	2	安保 隆充	安保塗装株式会社
味噌製造工	2	井合 実	マルコメ株式会社
日本料理調理人	2	大日方 金好	有限会社K&A旬菜古民家「ゆるり」
フラワー装飾師	2	金澤 明美	株式会社エス・ケイ花企画
室内装飾工	2	佐野 訓朗	株式会社岩野商会
木地師	2	巢山 友治	有限会社モックテック陽水
旋盤工	2	高田 清	長野オリンパス株式会社
建築鉄工	2	高山 豊正	株式会社高山製作所
指物職	2	西澤 和馬	有限会社高山家具製作所
発電機・電動機修理工	2	西谷 正	有限会社アース・テック

卓越技能者長野県知事表彰 受賞者名簿 (H30～R4)

職種	年度	氏名	事業所
かわらぶき工	2	西宮 登喜男	株式会社綿内瓦工業
中華料理調理人	2	兵藤 英人	中華料理楡林
製めん工	2	藤巻 豊	日穀製粉株式会社松本工場
豆腐・同加工食品製造工	2	洞澤 好廣	洞沢豆富店
光学レンズ工	2	堀 達矢	オリンパス株式会社長野事業場
飯山仏壇金具製作	2	三ツ井 照雄	有限会社三ツ井金具製作所
表具師	2	宮下 勝吉	文榮堂表具店
建築板金工	2	宮下 利一	有限会社宮下板金加工所
建築鉄骨	3	赤羽 廣治	赤羽鉄工株式会社
木製家具製造工・木製建具製造工	3	池田 久光	木工の池田
建築工事防水工	3	鈴木 健一郎	坂田工業株式会社
建築板金工	3	田中 勝己	田中板金店
飯山仏壇蒔絵製作	3	藤澤 一雄	株式会社藤澤蒔絵
かわらぶき工	3	古川 正幸	古川瓦美装
室内装飾工	3	古沢 淳司	株式会社岩野商会
プロダクトデザイナー ・インダストリアルデザイナー	3	星野 一憲	セイコーエプソン株式会社塩尻事業所
数値制御金属工作機械工	3	三澤 和雄	株式会社日邦バルブ
アーク溶接士	3	宮崎 文也	株式会社前田鉄工所
造園工	3	八木澤 清隆	有限会社信州緑地
表具師	3	山下 誠	松山堂山下表具店
日本料理	3	若宮 幸正	株式会社上高地温泉ホテル
アーク溶接工	4	青木 淳	株式会社ヤマウラ
表具師	4	安藤 弘文	安藤玉松堂表具店
NC金属特殊加工機工	4	井原 正治	シチズン時計マニュファクチャリング株式会社飯田工場
畳工	4	垣内 泰明	垣内製畳
舗装機械運転工	4	久保田 和司	高木建設株式会社
木製家具・建具製造工	4	小林 隆雄	小林建具店
左官	4	佐藤 圭司	株式会社佐藤左官
室内装飾工	4	戸谷 宏一	株式会社 岩野商会
味噌製造工	4	野澤 広巳	株式会社 竹屋
時計組立工	4	林 香織	セイコーエプソン株式会社 塩尻事業所
漆器工	4	宮原 正岳	白木屋漆器店
日本料理調理人	4	宮下 隆雄	フェリスクレール
中華料理調理人	4	山口 信一郎	信州総合開発観光株式会社スカイパークホテル

(別添)

令和5年度

卓越した技能者の表彰の推薦に係る留意事項

推薦書類の作成方法・提出方法・記載例

目次

推薦書類の作成・提出方法

1. 推薦書類の作成・提出について P. 1
2. 提出書類の取扱いについて P. 3

推薦書類等

- 別紙1 都道府県知事又は全国的な事業主団体等による推薦 P. 4
- 別紙2 一般の推薦者による推薦 P. 5

調書記載要領等

- 別紙3 調書記載要領 P. 6
- 別紙4 【必読】推薦書類一式作成上の具体的留意点 P. 13

記載例

- 様式3の1 調書（都道府県） P. 16
- 様式3の2 調書（団体） P. 19
- 様式3の3 調書（一般） P. 22
- 様式4 写真様式 P. 25
- 様式5 専門用語集 P. 27
- 様式6の1・6の2 推薦理由書・賛同理由書（一般） P. 28

推薦書類の作成・提出方法

1. 推薦書類の作成・提出について

(1) 推薦書類一式について

推薦者は、1人の被推薦者の書類を①調書記載要領、②【必読】推薦書類一式作成上の具体的留意点、③調書の記載例に基づいて作成の上、提出すること。

なお、都道府県知事又は全国的な事業主団体等において推薦者が複数いる場合（全国的な事業主団体等においては女性の被推薦者が1人以上いる場合に限る。）、一括して提出すること。

また、指定した書類以外のものは提出しないこと。

ア 都道府県知事又は全国的な事業主団体等による推薦

別紙1 (P.4) によること。

イ 一般の推薦者による推薦

別紙2 (P.5) によること。

(2) 推薦書類の各様式の入手について

推薦書類の各様式は、厚生労働省のホームページ内「卓越した技能者（現代の名工）」表彰制度コーナーからダウンロードすること。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/meikou/index.html

(3) 推薦書類の提出について

ア 推薦書類の提出期間

推薦書類の提出期間は以下のとおりとする。

令和5年2月1日（水）～令和5年3月31日（金）18時15分（必着）

イ 推薦書の提出方法

推薦書類について、提出先メールアドレスあて電子メールにより提出すること。ただし、推薦人数が10名以上になる場合は、電子媒体（CD-R）に資料を格納の上、郵送（簡易書留）により推薦書類一式を提出すること。電子媒体で提出する場合は、必ずフォルダにパスワードをつけるとともに、パスワードをメールにて連絡すること。

なお、電子メールや電子媒体による提出が困難な場合、推薦書類一式を郵送（簡易書留）により提出することとして差し支えない（令和5年3月31日（金）必着）。郵送による提出の場合は、推薦書類一式はA4サイズ・片面印刷の書面により作成すること。

ウ 電子メールのタイトル

推薦書類提出のメールのタイトルは以下のとおりとする。

（ア）都道府県知事

【XX（都道府県番号 2 桁） ●●（都道府県名）】令和 5 年度卓越した技能者の表彰に係る推薦について

注：「都」「道」「府」「県」は省略しないこと。

例：【01 北海道】令和 5 年度卓越した技能者の表彰に係る推薦について、【47 沖縄県】令和 5 年度卓越した技能者の表彰に係る推薦について

(イ) 全国的な事業主団体等

【●●（団体名：正式名称）】令和 5 年度卓越した技能者の表彰に係る推薦について

注：法人格（「一般社団法人」「公益社団法人」など）を有する団体については、法人格も略さずに正式名称を記載すること。

(ウ) 一般の推薦者

【一般推薦】令和 5 年度卓越した技能者の表彰に係る推薦について

エ その他留意事項

電子メールでの提出にあたっては以下のことを厳守すること。

(ア) 1 名分のすべての推薦書類をパスワード付き ZIP により圧縮して 1 つのファイルにすること。

圧縮したファイルのファイル名は「【XX（都道府県番号：都道府県知事推薦のみ）〇〇（推薦者名：上記ア～ウ参照）〇〇（被推薦者名）推薦書類一式.zip】とし、1 つのファイルに複数名の推薦書類は絶対に入れないこと。

例）都道府県知事：【13 東京都】厚労太郎推薦書類一式.zip

全国的な事業主団体等：【一般社団法人〇〇会】厚労太郎推薦書類一式.zip

一般の推薦者：【推薦二郎】厚労太郎推薦書類一式.zip

(イ) 1 通のメールに添付したファイルのサイズが計 10 メガバイト以上となった場合は、1 通につき計 10 メガバイト未満になるよう複数に分けて送信すること。

(ウ) すべての推薦書類送付後、添付ファイルを付けない別メールにて ZIP ファイルのパスワードを送信すること。複数のメールに分けて書類を送付した場合は、何通に分けて送付したかを明記すること。また、その際のメールのタイトルは上記（3）ア～ウの先頭に「【パスワード送付】」と付したものとすること。

(エ) 1 通のメールに添付するファイルは 1 人分とすること。よって、1 通のメールに 2 人以上の推薦書類は添付しないこと。

オ 提出先

〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎第5号館
厚生労働省 人材開発統括官付能力評価担当参事官室 技能振興係
TEL : 03-5253-1111 (内線 : 5968)

提出先メールアドレス : takuetsusuisen@mhlw.go.jp

(4) 推薦書類の不備について

- ア 提出書類は返却しないので、返却を要する資料は提出しないこと。
- イ 提出された書類に不備があった場合、当該箇所の修正や追加書類の提出を求める際には、適切に応じること。

2. 提出書類の取扱いについて

(1) 個人情報の取扱い

提出書類に記載された調書及び個人情報は、卓越した技能者の審査及び表彰以外の目的には使用しない。

ただし、被表彰者については、顕彰のために、氏名、年齢、職種、就業先及び技能功績概要を公表し、また、行政等の広報誌、ホームページ等に掲載することとなるので、推薦者はあらかじめ被推薦者に説明し、同意を得ること。

(2) 都道府県に対する被表彰者氏名等の提供について

全国的な事業主団体等又は一般の推薦者により推薦された被表彰者については、都道府県における顕彰のために、提出書類に記載された個人情報（被表彰者の氏名等）を就業先の都道府県知事へ提供する場合があるので、併せて同意を得ること。当該提供に併せて推薦者の氏名及び連絡先を都道府県知事に提供する場合があるので、あらかじめ承知しておくこと。

都道府県知事又は全国的な事業主団体等による推薦

推薦書類一式は、以下の書類をP.1の方法により作成すること。

なお、記載にあたってはP.16以降の記載例を参考にし、メールで提出すること。ただし、推薦人数が10名以上の場合は、電子媒体に格納の上、簡易書留にて提出すること。

1. 推薦書（1部）
 - 都道府県知事（様式1の1）
 - 全国的な事業主団体等（様式1の2）。
2. 担当者登録票（1部）
 - 都道府県知事（様式2の1）
 - 全国的な事業主団体等（様式2の2）
3. 調書（被推薦者1人につき1部）
 - 都道府県知事（様式3の1）
 - 全国的な事業主団体等（様式3の2）
4. 写真（様式4）（様式10ページ以内）（被推薦者1人につき1部）
5. 専門用語集（様式5）（被推薦者1人につき1部）
6. 住民票の写し（被推薦者本人の氏名と生年月日が確認できれば可。）
（被推薦者1人につき1部）
7. その他の資料
8. 氏名等に含まれる外字等の画像データ（該当者のみ）
9. チェックリスト（様式第7の1）（1部）

一般の推薦者による推薦

推薦書類一式は、以下の書類を P.1 の方法により作成すること。

なお、記載にあたっては P.22 以降の記載例を参考にし、全てメールにて提出すること。ただし、電子メールによる提出が困難な場合、推薦書類一式を郵送による提出することとして差し支えない。

1. 推薦書 (様式1の3)
2. 担当者登録票 (様式2の3)
3. 調書 (様式3の3)
4. 写真 (様式4) (様式10 ページ以内)
5. 専門用語集 (様式5)
6. 推薦理由書 (様式6の1)
7. 賛同理由書 (様式6の2) (賛同者2名分)
8. 住民票の写し (被推薦者本人の氏名と生年月日が確認できれば可。)
9. その他の資料
10. 氏名等に含まれる外字等の画像データ (該当者のみ)
11. チェックリスト (様式7の2)

調書記載要領

本調書は、被推薦者を審査するための基本資料となるものである。したがって、以下に留意の上、必要事項を簡潔明瞭かつ的確に所定欄に記載すること。

(留意事項)

昨年度以前の被推薦者を改めて推薦する場合、作成する推薦調書については内容や添付する写真を見直す等、過去に提出した推薦調書等と同一の内容とならないように作成されたい。

【調書1】

1. 「職業部門」欄

被推薦者が従事する職業の職種が属する本要領の別表に定める職業部門の番号を記入すること。

2. 「職種名(1)及び(2)」欄

被推薦者が従事する職種を別表に例示している職種名を参考に記入すること。
なお、職種名や部門が不明な際は以下を参照すること。

厚生労働省編職業分類（ハローワークインターネットサービス内）

https://www.hellowork.mhlw.go.jp/info/mhlw_job_dictionary.html

3. 「氏名」欄

住民票に記載されている字画で氏名を記入し、ふりがなを付けること。

- (1) 名字と名前の間に全角スペースを1つ挿入すること。
- (2) 変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字については、常用漢字等、一般的に使用されている文字に置き換え、「氏名・現就業先事

業所名の外字」欄にその旨明記すること。また、その際は文字の画像データを調書とは別に添付すること。

(3) 雅号等での表彰は受け付けないため、雅号等は記入しないこと。

良い例：厚労 太郎（名字と名前の間に全角スペースが1つ）

悪い例：厚労太郎（スペース無し）、厚労 太郎（スペースが2つ以上）、

厚労 太郎（スペースが半角）、厚 労 太 郎（名字と名前の間以外にもスペース）

氏名・現就業先事業所名の外字等記載例：「藤」は草冠が「十」のように離れた字、「刃」は「刃」のように突き出る字、「◎」の字は「○」の字の偏が〜〜となった字（フォント「△△」で表示可能）等

4. 「生年月日」欄

住民票に記載されている生年月日を「元号〇〇年〇〇月〇〇日」の形式（数字は半角）で記入すること。

5. 「現住所」欄

郵便番号、現住所及び電話番号を略さずに記入すること。住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入すること。

6. 「就業地」欄

(1) 「事業所名」欄の上段には、雇用されている場合にあっては雇用事業所名を、自営している場合にあっては屋号等をそれぞれ省略等せず正確に（法人格を省略したり、「株式会社」を「(株)」などと表記しないこと）、下段には、拠点名等（例：「〇〇工場」「〇〇支店」「〇〇営業所」など）があれば記載すること。

(2) 「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入すること。

(3) 令和5年11月1日以前に就業地が変更となることが推薦時に確定している場合はカッコ書きで「(〇月〇日より変更予定)」などと明記すること。また、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡すること。

(4) 「事業所全体の従業員数」欄における人数には、被推薦者も含めた人数を記

載すること。(例えば、就業者が被推薦者のみという事業所の場合は、0名とはならず、1名となる。)

7. 「職歴」欄

(1) 「職歴」欄

ア 就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。

イ 団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しないこと。

ウ いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴となること。

エ 令和5年11月1日以前に就業地が変更となることが推薦時に確定している場合は、6. 就業地欄と同様にカッコ書きで「(〇月〇日より変更予定)」などと明記すること。

(2) 「在職期間」欄

その職の始期及び終期を記入すること。

なお、現職については、令和5年11月1日をもって終期とすること。

(3) 「在職年月数」欄

月単位で計算した在職年月数を記入すること。

8. 「表彰歴」欄

(1) 表彰(技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入すること。)を受けている場合、その種類ごとの有無欄に「〇」を付し、表彰の概要及び取得年月を記入すること(表彰を証する書面の写しを全て添付すること)。

(2) 技能に関連する表彰でない、例えば「感謝状」「永年勤続表彰状」等は記

入しないこと。

9. 「免許・資格等」欄

(1) 免許、資格、特許、実用新案等を有する者については、その種類ごとの有無欄に「○」を付し、当該免許等の概要及び取得年月を記入すること（免許等を証する書面の写しを全て添付すること。）。

(2) 本表彰と直接関連がない、例えば「普通自動車運転免許」等は記入しないこと。

10. 「大会入賞歴等」欄

(1) 高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度、業種、職種を記入すること（認定を証する書面の写しを全て添付すること。）。

(2) 技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入すること（入賞を証する書面の写しを全て添付すること。）。

11. 「技能検定」欄

該当する場合は、技能士の名称（○級○○技能士）と取得年月を記入すること（技能士証の写しを全て添付すること。）。なお、級は一級、二級等のように漢数字で表記し、単一級の場合は「単一級○○技能士」と記入すること。

【調書2】

調書（2）の「卓越した技能の概要」欄について、一葉で記入することが困難な場合は、調書（3）を2葉まで追加して記載することとして差し支えない。

1. 「過去5年の推薦回数」欄

被推薦者が、過去5年において卓越した技能者の表彰について厚生労働大臣に推薦された年度を記入するとともに、その推薦回数の合計を記入すること。

なお、被推薦者が過去5年で初めて推薦される場合は計0回と記入すること。

2. 「推薦順位等」欄

(1) 「選考対象者総数」欄（一般推薦の場合は不要）

ア 被推薦者の推薦に当たり、実際に推薦者が選考の対象とした全ての員数を記入すること。

イ 推薦可能性のある潜在的人数を記載するなど、実際には選考していない者は計上しないこと。

(2) 「推薦総数」欄（1人のみ推薦の団体および一般推薦の場合は不要）

選考対象者総数の内数であって被推薦者の全部門における総数を記入すること。

(3) 「推薦順位」欄（1人のみ推薦の団体および一般推薦の場合は不要）

被推薦者の全部門における推薦順位を記入すること。

3. 「推薦者及び推薦理由」欄

(1) 推薦者、推薦団体及び賛同者の住所、電話番号、名称（又は氏名）及びその推薦理由を記入すること。

(2) 推薦者については、都道府県推薦の場合は都道府県知事名、団体推薦の場

合は団体の長の氏名とすること。ただし、空席時等やむをえない場合は職務代行者であることを明記した上で職務代行者名を記入すること。

(3) 都道府県知事推薦の1位の者に関しては、他の候補者と比較して最上位とした理由についても併せて記入すること。

4. 「卓越した技能の概要」欄

技能者表彰審査委員が具体的に評価する欄であるので、その卓越性を的確に把握し、評価できるよう無意味な修飾語を用いることなく具体的かつ分かりやすく記載すること。

また、用語等については、全てふりがな及び簡単にわかる説明（様式5 専門用語集）を付すこと。

(1) 「技能の概要」欄

ア 関連する他の資料（別紙1 7. その他の資料 及び 別紙2 9. その他の資料。以下同じ。）に合わせて、被推薦者の従事する職種、技能の水準、範囲、特徴又は他の技能者との比較等の観点から卓越した技能を有するものであることが判定できるよう、特に技能の質的な面を中心に具体的に記入すること。

イ 記述に当たっては、客観性（単に「非常に優れている」ではなく、どのように優れているのか数値で表す等）、明確性（改善実績における本人の技能の関わりの明示等）に心がけること。また、被推薦者の功績・経歴が中心となっているケースが見られるので注意すること。

ウ 雅号等を有する者については、その雅号等を本欄に記載しても差し支えないこと。なお、雅号等での表彰は受け付けないため、氏名欄には雅号等は記

入しないよう留意すること。

(2) 「功績・貢献の概要」欄

関連する他の資料に合わせて、その者が当該技能をもって製作又は建造等をしたもので、当該被推薦者の技能の程度の判断に資するとともに、企業、産業界及び社会に対する貢献度等において高く評価されているような代表的な事績を具体的に記入すること。

(3) 「後進指導育成の概要」欄

被推薦者が後進の指導・育成に当たった方法、対象及び範囲等を具体的に記入すること。

(4) 「現役性」欄

被推薦者が現役の技能労働者であるかを確認するため、その者の有する技能に関連した職種における1日平均の就業時間又はその者の有する技能に関連した職種に専ら就業しているか否か等を具体的に記入すること。

【必読】 推薦書類一式作成上の具体的留意点**【調書】**

作成した文書が以下の事項に該当する場合は、それぞれの留意点を踏まえ修正すること。

1 表現が客観性に欠ける

(例)「非常に優れている」

この場合、他と比較してどう優れているか数値等で表現するよう工夫すること。

(例)「短時間で加工できる」

この場合、「通常3時間かかる加工を1時間でできる」等具体的に表現すること。

(例)「精度が向上した」

この場合、「標準公差 $\pm 0\mu\text{m}$ が $\pm \Delta\mu\text{m}$ に向上した」等具体的に表現すること。

2 共同作業による場合、その実績における本人の関わりが不明確

グループ作業や大型製品等の場合、本人が関わった部分について、個人の技能に特化し、具体的に記載すること。

3 技能・功績の実績内容が、技術的要素のみ

卓越した技能を有する者であることが判断できるよう、特に技能の質的な面を中心にわかりやすく記載すること。

4 製品やサービスの紹介のみで、技能の関与が不明確

その製品の製作過程又はサービスの提供過程のどこで本人の技能が活かされたか明確にすること。

5 地場産業における活躍に限定され、技能の相対的レベルが掴みにくい

全国の候補者の中から選定することから、全国レベルで見た場合に、他の技能者と比較してどの程度優れているのか、内容を把握している場合は記載すること。地域に限定されるような性質の技能で、全国レベルの評価が難しい場合は、その地域における地場産業への貢献内容について記載すること。

【専門用語集】

専門的・技術的分野に関する用語名、ふりがな及び解説を付したものとすること。

解説が必要な用語が全提出書類中に1つも無い場合は「無し」と記入し提出すること。

ただし、その場合は本当に解説が必要な用語が1つも無いかよく確認すること。

【写真】

1 添付されている写真が少ない又は不鮮明

写真は、被推薦者の製作した製品や作業風景を視覚的に確認し、調書を補完し、審査の一助として被推薦者の能力や技術を明確に審査員が判断できるよう添付するものである。このため、被推薦者の技能レベルや実際の作業風景・作品等が分かる大きくて鮮明なものを可能な限り複数枚（様式 10 ページ以内）添付すること。

2 写真に対する解説文章の記載

作業風景や作品の写真において、どのように被推薦者の卓越した技能が発揮されているか簡潔明瞭に可能な限り記載すること。

3 本人と分かる直近 1 年以内の作業風景の写真を 1 枚以上添付

現役性の有無を確認するために、客観的に本人と分かる者が作業している直近 1 年以内（令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで）に撮影された写真を 1 枚以上および同期間における作品・製品等の写真を 1 枚以上添付すること（製作期間が長く、同期間における作品・製品等が無い等の場合は最新のもので可）。

全ての写真が、「手だけしか写っていない」、「後ろ姿の写真」など本人と確認しづらい写真とならないように留意すること。また複数人写っている写真の場合はどれが本人か分かるようにすること。

4 技能や功績が確認できない写真が添付されている

単なる集合写真等、被推薦者の持つ技能や功績が確認できない写真は添付しないこと。

【その他資料】

被推薦者に係る技能の程度及び功績を確認することのできる資料等については、追加で以下のような書類を添付することができる。必要最小限の分量を登録するとともに、本人の作品や製品及び製作に使用した素材などは送付しないこと。

1 新聞記事等

本人の実績に関する新聞、雑誌、業界紙の記事等。
該当部分を抜粋し添付すること。

2 説明書、図面、写真等

本人の製作物、発明、考案又は改善等に関する説明書、図面等。
改良前と改良後の比較をなるべく数量的に表現し、分かりやすくすること。

3 特許、実用新案等の資料

特許、実用新案等については、発明者名（共同の場合は、担当分野を明らかにすること。）、所有者名、内容、取得年月日を明らかにする資料（例：公開特許公報など）の写しを添付すること。

4 表彰、職業能力検定等に係る資料

表彰歴、免許・資格等の取得歴（訓練指導員免許の取得、技能検定委員の委嘱等を含む。）、技能検定、高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスター、技能グランプリ等各種競技大会の入賞歴等を記入した場合には、当該事跡を明らかにする書類の写しを漏れなく全て添付すること。

記載例：都道府県

調書（1）都道府県

令和5年11月1日 現在

都道府県番号	0	推薦都道府県名	職業部門番号	5	職種名（1）	職種名（2）	氏名・現就業先事業所名の外字
		〇〇県			電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	例：「藤」は草冠が「十」のように離れた字、「刃」は「刃」のように突き出る字、「@」の字は「O」の字の偏が〜となった字（フォント「△△」で表示可能）等

推薦都道府県名欄、都道府県番号欄
プルダウンから推薦都道府県名を選択すること。
選択した都道府県に対応する番号が自動で都道府県番号欄に挿入される。

職業部門番号欄、職種名（1）（2）欄
「実施要領 別表」第1部門～第20部門を参考に職種を記入すること。（P.6参照）

氏名・現就業先事業所名の外字欄
被推薦者の氏名・現就業先事業所名に変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字がある場合、必ずここに記載すること。

ふりがな	ぎのう しゅういち	性別	男
氏名	技能 秀一		
生年月日	昭和31年12月10日	年齢	66
現住所			
〒000-0000			
都道府県 〇〇県			
市区町村 〇〇市〇〇町〇丁目〇-〇			
〇〇マンション〇〇号室			
TEL 000-000-0000			

氏名・ふりがな・性別欄
住民票に記載されている字画で氏名を記入し、ふりがなを付け、名字と名前の間に全角スペースを1つ挿入すること。
性別欄は住民票に記載されている性別をプルダウンから選択すること。

生年月日・年齢欄
生年月日を入力すると和暦に変換される。
入力は和暦の場合「年号（昭和、平成、令和）yy年mm月dd日」、「年号（S,H,R）yy.mm.dd」（ドット区切り）または「年号（S,H,R）yy/mm/dd」（スラッシュ区切り）、西暦の場合「yyyy/mm/dd」（スラッシュ区切り）のように入力すること。「年齢」欄は生年月日を正しく入力すると自動で挿入される。
○「S15.10.9」「S15/6/23」「1943/2/25」「昭和39年12月13日」
×「1940.7.7」「1942.6/18」「昭和15年10月24日」→エラーになる

現住所欄
被推薦者の現住所および電話番号を省略等せずに記入すること。住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入すること。

職歴欄

就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等順番に記入すること。団体歴、公職歴、家事手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しないこと。ただし、いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴となる。現役の職歴は最後に「として現在に至る」などと記入すること。

職歴	在職期間（年月日）	在職年月数
△△電機（株）第二製造部〇〇課に電機工として就職	S49.4.1 ~ S51.3.31	2年0月
〇〇電機（株）〇〇工場 第一製造部〇〇課に電子機器組立工として就職	S51.4.1 ~ H3.3.15	14年11月
同 主任	H3.3.16 ~ H11.9.30	8年6月
同 〇〇長	H11.10.1 ~ H26.3.31	14年6月
同 〇〇長として現在に至る	H26.4.1 ~ R4.11.1	8年7月

事業所全体の従業員数欄
被推薦者も含めた人数を半角数字のみで入力すること。「人」は自動で挿入される。
就業者が被推薦者のみの場合は、0ではなく1を入力すること。

在職期間（年月日）・在職年月数欄
上記「生年月日」欄と同様に在職期間（いつからいつまでか）を入力すること。正しく入力すると和暦に変換され、「在職年月数」欄に在職年月数が自動で入力される。

就業先					
事業所名①	〇〇電機 株式会社				~
事業所名②	〇〇工場				~
事業所全体の従業員数	120人				~
所在地					~
	〒000-0000				~
	都道府県 〇〇県				~
	市区町村 〇〇市〇〇町〇〇-〇				~
	TEL 000-000-0000（内線***）				~
					在職期間 計
					重複期間を除く在職期間 計
					ること。

就業先欄
事業所名①欄には、雇用されている場合は雇用事業所名を、自営している場合は屋号等をそれぞれ省略等せず正確に（法人格を省略したりしないこと）、事業所名②欄には、拠点名等（例：「〇〇工場」「〇〇支店」「〇〇営業所」など）があれば記載すること。
また「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さず記入すること。令和5年11月1日以前に就業地が変更となることが推薦時に確定している場合はカッコ書きで「（〇月〇日より変更予定）」などと明記すること。また、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡すること。

表彰歴		有無	表彰の概要	取得年月
	大臣表彰			
	知事・行政機関の局長表彰	○	卓越技能者○○県知事表彰：○○に係る卓越技能について表彰	HO年○月
	全国レベルの業界団体表彰			
	その他	○	優秀技能者○○市長表彰：○○に係る優秀技能について表彰 ○○県職業能力開発協会会長表彰：技能検定の推進貢献について表彰	HO年○月 HO年○月

表彰歴欄

表彰（技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入すること。）を有する場合、その種類ごとの有無欄に「○」を付し、表彰の概要及び取得年月を記入すること（表彰を証する書面の写しを全て添付すること）。

なお、技能に関連する表彰でない、例えば「感謝状」「永年勤続表彰状」等は記入しないこと。

職業訓練指導員免許の取得歴又は技能検定委員の委嘱歴等欄

職業訓練指導員免許の取得歴・技能検定委員の委嘱歴・特許を有する者については、有無欄に「○」を付し、免許・資格等の概要と取得年月を記入すること（免許等を証する書面の写しを全て添付すること）。なお、推薦を受ける技能と直接関係がない技能に関するものは記入しないこと。

職業訓練指導員免許の取得歴又は技能検定委員の委嘱歴等		有無	免許・資格等の概要	取得年月
	職業訓練指導員免許	○	機械科	HO年○月
	技能検定委員	○	○○県技能検定委員（機械）	HO年○月
	特許	○	特許123456「○○用装置の考案」	HO年○月

大会入賞歴等欄

高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度、業種、職種を記入すること（認定を証する書面の写しを全て添付すること。）。

技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入すること（入賞を証する書面の写しを全て添付すること。）。

技能検定欄

該当する場合は、有無欄に「○」を付し、技能士の名称（○級○○技能士）と取得年月を記入すること（技能士証の写しを全て添付すること）。なお、級は一級、二級等のように漢数字で表記し、単一級の場合は「単一級○○技能士」と記入すること。

大会入賞歴等	認定年度	業種	職種	技能検定	技能士の名称	取得年月	
						一級電気機器組立技能士	HO年○月
		ものづくりマイスター			○○職種	一級制御盤組立技能士	HO年○月
		全技連マイスター					
		開催回	参加職種		順位		
		技能グランプリ					
		技能五輪国際大会入賞歴	○回		機械職種	○位	
		技能五輪全国大会入賞歴					

調書（２）都道府県

記載例：都道府県

（様式３の１）

都道府県番号	都道府県名	職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	ぎのう しゅういち
0	〇〇県	5	電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	被推薦者氏名	技能 秀一

都道府県番号欄 ほか自動で入力される（調書（３）（４）も同様）。

過去５年の推薦回数欄

被推薦者が、過去５年において卓越した技能者の表彰について厚生労働大臣に推薦された年度を記入するとともに、その推薦回数の合計を記入すること。なお、被推薦者が過去５年で初めて推薦される場合は計０回と記入すること。

推薦者及び推薦理由欄

推薦者の住所、電話番号及びその推薦理由を記入すること。推薦者については、都道府県知事名とすること。ただし、空席時等やむをえない場合は職務代行者であることを明記した上で職務代行者名を記入すること。都道府県知事推薦の１位の者に関しては、他の候補者と比較して最上位とした理由についても併せて記入すること。

過去５年の推薦回数	(所在地又は住所)	推薦者及び推薦理由
令和3 年度	〒 〇〇〇-〇〇〇〇	推薦者氏名 TEL 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県知事 〇〇 〇〇 (推薦理由) 電子分野の試作品製作における「はんだ付け」を始め、試作品の完成されるまでに必要な電子回路技術、組付技能、計測・評価技能などの電子機器組立に関する技能に卓越している。その技能を活かして、宇宙産業機器や自動車用電子制御製品、ITS製品などの多くの試作を担当し、製品化まで導いた。また、幾多の改善による生産性及び品質の向上や、職場安全に寄与するとともに、多くの後進技能者の指導・育成に貢献した。以上のことから本被推薦者は、電子機器組立に関する優れた技能を伝承するなど、多くの実績があり、県１位として推薦する。
令和2 年度	都道府県 〇〇県	
平成29 年度	市区町村 〇〇市	
年度	〇〇町〇-〇-〇	
年度	(推薦者氏名)	
計 3 回	〇〇県知事 〇〇 〇〇	
推薦順位等		
選考対象者総数	36人	
推薦総数	7人	
推薦順位	1位	

推薦順位等欄

- ・選考対象者総数欄・・・被推薦者の推薦に当たり、選考の対象とした全ての員数（被推薦者とならなかった者も含む。）を記入すること。なお、厚生労働大臣への推薦に当たり、管轄の市区町村、商工関係機関又はその他の団体等に推薦を依頼した上で候補者の選定を行っている場合は、当該推薦人数を記載することとし、潜在的な人数を記載するなど、過大な人数を計上しないように留意すること。
- ・推薦総数欄・・・被推薦者の全部門における総数を記入すること。
- ・推薦順位欄・・・被推薦者の全部門における推薦順位を記入すること。

卓越した技能の概要欄

P.11 4. 「卓越した技能の概要」欄に記載の各項目を参照の上、記入すること。なお、一葉で記入することが困難な場合は、調書（３）（４）まで記載して差し支えない。

卓越した技能の概要

技能の概要	功績・貢献の概要	後進指導育成の概要	現役性
電子分野の試作品製作に長年従事して培った知識・技能を有しており、特に下記の技能に優れている。 1. 高信頼性を保障する組立技能 電子機器組立の「はんだ付け」技能と、振動を考慮した組立技能を修練し、その経験と研究の中から、信頼性の高い工法や工程を生み出したその技能は、ハイブリッド車や燃料電池車に搭載されている電子制御製品の試作でも基礎となっており、現在は幅広く標準化されている。 2. プリント板アートワーク技能 電子製品の試作では、小型軽量化	1. 宇宙産業機器への貢献 人工衛星搭載用の低振動モータと宇宙環境測定装置の製作において、米国航空宇宙局の要求基準をクリアし、製品化を実現した。この技能は、現在運用中の国際宇宙ステーションの実験モジュール内で使用する真空ポンプ用コントローラの製造にも用いられ、宇宙産業事業の拡大に貢献した。 2. モータスポーツ活動への貢献 エンジン性能の向上を目指したエンジン制御用コンピュータの試作と量産に取り組んだその結果、高性能な電子部品の組付品質の向上に貢献した。 現在、この工法は標準化され、試作品の	1. 電気・電子関係の国家検定に実技指導員として活躍し、これまでに〇〇名を合格させ、〇〇県技能競技大会において1位入賞者〇〇名を輩出した。 2. 技能五輪大会出場者の指導を通じ、工場よりこれまでに〇〇人を全国大会に出場させた。大会では1位入賞〇〇名の成績を獲得させると共に〇〇年の国際大会でも1位入賞を果たさせる等、高い指導能力を発揮した。 3. 技能検定補佐員として〇〇年にわたり尽力し、〇〇年から検定委員として、検定（電子機器・配電盤組立て）の運営に貢献し、現在も県技能検定専門委員として活躍している。	技能五輪選手を指導する後進の指導員や技能五輪選手の指導、現場管理に尽力している。また、自ら電子機器組立工として、訓練課題の作製作業に日々従事している。 現在従事している業務内容とその内訳は次のとおりである。 就業時間〇時間 1. 新規課題の検討及び仕様書の作製（〇時間） 2. 指導方法や訓練内容の検討及び改善（〇時間） 3. 職場内の巡視と指導員や選手への指導・教育（〇時間）

記載例:団体

調書(1) 団体

令和5年11月1日 現在

推薦団体名	職業部門番号	5	職種名(1)	職種名(2)	氏名・現就業先事業所名の外字
一般社団法人 ○○会			電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	例:「藤」は草冠が「十」のように離れた字、「刃」は「刃」のように突き出る字、「◎」の字は「○」の字の偏が〜となった字(フォント「△△」で表示可能)等

推薦団体名欄

推薦団体名を正式名称で入力すること。法人格を有する場合、法人格を省略しないこと。

職業部門番号欄、職種名(1)(2)欄

「実施要領 別表」第1部門~第20部門を参考に職種を記入すること。(P.6参照)

氏名・現就業先事業所名の外字欄

被推薦者の氏名・現就業先事業所名に変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字がある場合、必ずここに記載すること。

ふりがな	ぎのう しゅういち	性別	男
氏名	技能 秀一		
生年月日	昭和31年12月10日	年齢	66
現住所			
〒000-0000			
都道府県 ○○県			
市区町村 ○○市○○町○○丁目○○			
○○マンション○○号室			
TEL 000-000-0000			

氏名・ふりがな・性別欄

住民票に記載されている字画で氏名を記入し、ふりがなを付け、名字と名前の間に全角スペースを1つ挿入すること。

性別欄は住民票に記載されている性別をプルダウンから選択すること。

生年月日・年齢欄

生年月日を入力すると和暦に変換される。

入力には和暦の場合「年号(昭和、平成、令和) yy年mm月dd日」、「年号(S,H,R) yy.mm.dd」(ドット区切り)または「年号(S,H,R) yy/mm/dd」(スラッシュ区切り)、西暦の場合「yyyy/mm/dd」(スラッシュ区切り)のように入力すること。「年齢」欄は生年月日を正しく入力すると自動で挿入される。

○「S15.10.9」「S15/6/23」「1943/2/25」「昭和39年12月13日」
×「1940.7.7」「1942.6/18」「昭和15年10月24日」→エラーになる

現住所欄

被推薦者の現住所および電話番号を省略等せずに記入すること。住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入すること。

職歴欄

就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しないこと。ただし、いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴となる。現役職歴は最後に「として現在に至る」などと記入すること。

職歴	在職期間(年月日)	在職年月数
△△電機(株) 第二製造部○○課に電機工として就職	S49.4.1 ~ S51.3.31	2年0月
○○電機(株) ○○工場 第一製造部○○課に電子機器組立工として就職	S51.4.1 ~ H3.3.15	14年11月
同 主任	H3.3.16 ~ H11.9.30	8年6月
同 ○○長	H11.10.1 ~ H26.3.31	14年6月
同 ○長として現在に至る	H26.4.1 ~ R4.11.1	8年7月

事業所全体の従業員数欄

被推薦者も含めた人数を半角数字のみで入力すること。「人」は自動で挿入される。就業者が被推薦者のみの場合は、0ではなく1を入力すること。

在職期間(年月日)・在職年月数欄

上記「生年月日」欄と同様に在職期間(いつからいつまでか)を入力すること。正しく入力すると和暦に変換され、「在職年月数」欄に在職年月数が自動で入力される。

就業先	事業所名① ○○電機 株式会社	事業所名② ○○工場	事業所全体の従業員数	120人
所在地	〒000-0000			
	都道府県 ○○県			
	市区町村 ○○市○○町○○丁目○○			
	TEL 000-000-0000 (内線***)			
			在職期間 計	
			重複期間を除く在職期間 計	

就業先欄

事業所名①欄には、雇用されている場合は雇用事業所名を、自営している場合は屋号等をそれぞれ省略等せず正確に(法人格を省略したりしないこと)、事業所名②欄には、拠点名等(例:「○○工場」「○○支店」「○○営業所」など)があれば記載すること。

また「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入すること。令和5年11月1日以前に就業地が変更となることが推薦時に確定している場合はカッコ書きで「(○月○日より変更予定)」などと明記すること。また、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡すること。

表彰歴		有無	表彰の概要	取得年月
	大臣表彰			
	知事・行政機関の局長表彰	○	卓越技能者〇〇県知事表彰：〇〇に係る卓越技能について表彰	H〇年〇月
	全国レベルの業界団体表彰			
	その他	○	優秀技能者〇〇市長表彰：〇〇に係る優秀技能について表彰 〇〇県職業能力開発協会会長表彰：技能検定の推進貢献について表彰	H〇年〇月 H〇年〇月

表彰歴欄

表彰（技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入すること。）を有する場合、その種類ごとの有無欄に「○」を付し、表彰の概要及び取得年月を記入すること（表彰を証する書面の写しを全て添付すること）。

なお、技能に関連する表彰でない、例えば「感謝状」「永年勤続表彰状」等は記入しないこと。

職業訓練指導員免許の取得歴又は技能検定委員の委嘱歴等欄

職業訓練指導員免許の取得歴・技能検定委員の委嘱歴・特許を有する者については、有無欄に「○」を付し、免許・資格等の概要と取得年月を記入すること（免許等を証する書面の写しを全て添付すること）。なお、推薦を受ける技能と直接関係がない技能に関するものは記入しないこと。

職業訓練指導員免許又は技能検定委員の委嘱歴等		有無	免許・資格等の概要	取得年月
	職業訓練指導員免許	○	機械科	H〇年〇月
	技能検定委員	○	〇〇県技能検定委員（機械）	H〇年〇月
	特許	○	特許123456「〇〇用装置の考案」	H〇年〇月

大会入賞歴等欄

高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度、業種、職種を記入すること（認定を証する書面の写しを全て添付すること。）。

技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入すること（入賞を証する書面の写しを全て添付すること。）。

技能検定欄

該当する場合は、有無欄に「○」を付し、技能士の名称（〇級〇〇技能士）と取得年月を記入すること（技能士証の写しを全て添付すること）。なお、級は一級、二級等のように漢数字で表記し、単一級の場合は「単一級〇〇技能士」と記入すること。

大会入賞歴等	認定年度	業種	職種	技能士の名称	取得年月	
	高度熟練技能者				一級電気機器組立技能士	H〇年〇月
	ものづくりマイスター	H28			一級制御盤組立技能士	H〇年〇月
	全技連マイスター					
		開催回	参加職種		順位	
	技能グランプリ					
	技能五輪国際大会入賞歴	〇回	機械職種		〇位	
技能五輪全国大会入賞歴						

調書（２）団体

記載例：団体

（様式３の２）

推薦団体名	職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	ぎのう しゅういち
一般社団法人 ○○会	5	電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	被推薦者氏名	技能 秀一

都道府県番号欄 ほか自動で入力される（調書（３）（４）も同様）。

過去５年の推薦回数欄

被推薦者が、過去５年において卓越した技能者の表彰について厚生労働大臣に推薦された年度を記入するとともに、その推薦回数の合計を記入すること。なお、被推薦者が過去５年で初めて推薦される場合は計０回と記入すること。

過去５年の推薦回数	年度	推薦者及び推薦理由	(所在地又は住所)
令和３	年度	推薦者及び推薦理由欄 推薦者の住所、電話番号及びその推薦理由を記入すること。推薦者については、推薦団体の代表者氏名とすること。ただし、空席時等やむをえない場合は職務代行者であることを明記した上で職務代行者名を記入すること。	〒 000-0000
令和２	年度		都道府県 ○○県
平成29	年度		市区町村 ○○市
	年度		○○町○-○-○ ○○ビル○階 株式会社○○内
	年度		(推薦団体の代表者氏名) TEL 000-000-0000
計	3 回		一般社団法人 ○○会 理事長 ○○ ○○
推薦順位等			(推薦理由)
選考対象者総数	13人		電子分野の試作品製作における「はんだ付け」を始め、試作品の完成されるまでに必要な電子回路技術、組付技能、計測・評価技能などの電子機器組立に関する技能に卓越している。その技能を活かして、宇宙産業機器や自動車用電子制御製品、ITS製品などの多くの試作を担当し、製品化まで導いた。また、幾多の改善による生産性及び品質の向上や、職場安全に寄与するとともに、多くの後進技能者の指導・育成に貢献した。以上のことから本被推薦者は、電子機器組立に関する優れた技能を伝承するなど、多くの実績があるため推薦する。
推薦総数	2人		
推薦順位	1位		

推薦順位等欄

・選考対象者総数欄…被推薦者の推薦に当たり、選考の対象とした全ての員数（被推薦者とならなかった者も含む。）を記入すること。なお、厚生労働大臣への推薦に当たり、管轄の商工関係機関又はその他の団体等に推薦を依頼した上で候補者の選定を行っている場合は、当該推薦人数を記載することとし、潜在的人数を記載するなど、過大な人数を計上しないように留意すること。

以下は女性を含む２人を推薦した団体のみ記入すること。

- ・推薦総数欄…被推薦者の全部門における総数を記入すること。
- ・推薦順位欄…被推薦者の全部門における推薦順位を記入すること。

卓越した技能の概要欄

P.11 4. 「卓越した技能の概要」欄に記載の各項目を参照の上、記入すること。なお、一葉で記入することが困難な場合は、調書（３）（４）まで記載して差し支えない。

卓越した技能の概要

技能の概要	功績・貢献の概要	後進指導育成の概要	現役性
電子分野の試作品製作に長年従事して培った知識・技能を有しており、特に下記の技能に優れている。 1. 高信頼性を保障する組立技能 電子機器組立の「はんだ付け」技能と、振動を考慮した組立技能を修練し、その経験と研究の中から、信頼性の高い工法や工程を生み出したその技能は、ハイブリッド車や燃料電池車に搭載されている電子制御製品の試作でも基礎となっており、現在は幅広く標準化	1. 宇宙産業機器への貢献 人工衛星搭載用の低振動モータと宇宙環境測定装置の製作において、米国航空宇宙局の要求基準をクリアし、製品化を実現した。この技能は、現在運用中の国際宇宙ステーションの実験モジュール内で使用する真空ポンプ用コントローラの製造にも用いられ、宇宙産業事業の拡大に貢献した。 2. モータースポーツ活動への貢献 エンジン性能の向上を目指したエンジン制御用コンピュータの試作と量産に取り組んだその結果、高性能な電子	1. 電気・電子関係の国家検定に実技指導員として活躍し、これまでに○○名を合格させ、○○県技能競技大会において1位入賞者○○名を輩出した。 2. 技能五輪大会出場者の指導を通じ、工場よりこれまでに○○人を全国大会に出場させた。大会では1位入賞○○名の成績を獲得させると共に○○年の国際大会でも1位入賞を果たさせる等、高い指導能力を発揮した。 3. 技能検定補佐員として○○年にわたり尽力し、○○年から検定	技能五輪選手を指導する後進の指導員や技能五輪選手への指導、現場管理に尽力している また、自ら電子機器組立工として、訓練課題の作製作業に日々従事している。 現在従事している業務内容とその内訳は次のとおりである。 就業時間○時間 1. 新規課題の検討及び仕様書類の作製（○時間）

記載例：一般

(様式3の3)

調書(1) 一般

令和5年11月1日 現在

職業部門番号	5	職種名(1)	職種名(2)	氏名・現就業先事業所名の外字	例：「藤」は草冠が「十」のように離れた字、「刃」は「刃」のように突き出る字、「◎」の字は「○」の字の偏が〜となった字(フォント「△」で表示可能)等
		電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工		

職業部門番号欄、職種名(1)(2)欄
「実施要領 別表」第1部門～第20部門を参考に職種を記入すること。(P.6参照)

氏名・現就業先事業所名の外字欄
被推薦者の氏名・現就業先事業所名に変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字がある場合、必ずここに記載すること。

ふりがな	ぎのう しゅういち	性別	男
氏名	技能 秀一		
生年月日	昭和31年12月10日	年齢	66
現住所			
〒 000-0000			
都道府県 ○○県			
市区町村 ○○市○○町○○丁目○○			
○○マンション○○号室			
TEL 000-000-0000			

氏名・ふりがな・性別欄
住民票に記載されている字画で氏名を記入し、ふりがなを付け、名字と名前の間に全角スペースを1つ挿入すること。
性別欄は住民票に記載されている性別をプルダウンから選択すること。

生年月日・年齢欄
生年月日を入力すると和暦に変換される。
入力は和暦の場合「年号(昭和、平成、令和)yy年mm月dd日」、「年号(S,H,R)yy.mm.dd」(ドット区切り)または「年号(S,H,R)yy/mm/dd」(スラッシュ区切り)、西暦の場合「yyyy/mm/dd」(スラッシュ区切り)のように入力すること。「年齢」欄は生年月日を正しく入力すると自動で挿入される。
○「S15.10.9」「S15/6/23」「1943/2/25」「昭和39年12月13日」
×「1940.7.7」「1942.6/18」「昭15年10月24日」→エラーになる

現住所欄
被推薦者の現住所および電話番号を省略等せずに記入すること。住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入すること。

職歴欄
就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しないこと。ただし、いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴となる。現役の職歴は最後に「として現在に至る」などと記入すること。

職歴	在職期間(年月日)	在職年月数
△△電機(株) 第二製造部○○課に電機工として就職	S49.4.1 ~ S51.3.31	2年0月
○○電機(株) ○○工場 第一製造部○○課に電子機器組立工として就職	S51.4.1 ~ H3.3.15	14年11月
同 主任	H3.3.16 ~ H11.9.30	8年6月
同 ○○長	H11.10.1 ~ H26.3.31	14年6月
同 ○長として現在に至る	H26.4.1 ~ R4.11.1	8年7月

事業所全体の従業員数欄
被推薦者も含めた人数を半角数字のみで入力すること。「人」は自動で挿入される。
就業者が被推薦者のみの場合は、0ではなく1を入力すること。

在職期間(年月日)・在職年月数欄
上記「生年月日」欄と同様に在職期間(いつからいつまでか)を入力すること。正しく入力すると和暦に変換され、「在職年月数」欄に在職年月数が自動で入力される。

就業先	
事業所名①	○○電機 株式会社
事業所名②	○○工場
事業所全体の従業員数	120人
所在地	
〒 000-0000	
都道府県 ○○県	
市区町村 ○○市○○町○○○○	
TEL 000-000-0000 (内線***	

就業先欄
事業所名①欄には、雇用されている場合は雇用事業所名を、自営している場合は屋号等をそれぞれ省略等せず正確に(法人格を省略したりしないこと)、事業所名②欄には、拠点名等(例：「○○工場」「○○支店」「○○営業所」など)があれば記載すること。
また「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入すること。令和5年11月1日以前に就業地が変更となることが推薦時に確定している場合はカッコ書きで「(○月○日より変更予定)」などと明記すること。また、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡すること。

在職期間	計
重複期間を除く在職期間	計
ること。	

表彰歴		有無	表彰の概要	取得年月
	大臣表彰			
	知事・行政機関の局長表彰	○	卓越技能者〇〇県知事表彰：〇〇に係る卓越技能について表彰	HO年〇月
	全国レベルの業界団体表彰			
	その他	○	優秀技能者〇〇市長表彰：〇〇に係る優秀技能について表彰 〇〇県職業能力開発協会会長表彰：技能検定の推進貢献について表彰	HO年〇月 HO年〇月

表彰歴欄

表彰（技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入すること。）を有する場合、その種類ごとの有無欄に「○」を付し、表彰の概要及び取得年月を記入すること（表彰を証する書面の写しを全て添付すること）。

なお、技能に関連する表彰でない、例えば「感謝状」「永年勤続表彰状」等は記入しないこと。

職業訓練指導員免許の取得歴又は技能検定委員の委嘱歴等欄

職業訓練指導員免許の取得歴・技能検定委員の委嘱歴・特許を有する者については、有無欄に「○」を付し、免許・資格等の概要と取得年月を記入すること（免許等を証する書面の写しを全て添付すること）。なお、推薦を受ける技能と直接関係がない技能に関するものは記入しないこと。

職業訓練指導員免許の取得歴又は技能検定委員の委嘱歴等		有無	免許・資格等の概要	取得年月
	職業訓練指導員免許	○	機械科	HO年〇月
	技能検定委員	○	〇〇県技能検定委員（機械）	HO年〇月
	特許	○	特許123456「〇〇用装置の考案」	HO年〇月

大会入賞歴等欄

高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度、業種、職種を記入すること（認定を証する書面の写しを全て添付すること）。

技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入すること（入賞を証する書面の写しを全て添付すること）。

技能検定欄

該当する場合は、有無欄に「○」を付し、技能士の名称（〇級〇〇技能士）と取得年月を記入すること（技能士証の写しを全て添付すること）。なお、級は一級、二級等のように漢数字で表記し、単一級の場合は「単一級〇〇技能士」と記入すること。

大会入賞歴等		認定年度	業種	職種	技能検定	技能士の名称	取得年月	
	高度熟練技能者						一級電気機器組立技能士	HO年〇月
	ものづくりマイスター	H28		〇〇職種			一級制御盤組立技能士	HO年〇月
	全技連マイスター							
		開催回	参加職種	順位				
	技能グランプリ							
	技能五輪国際大会入賞歴	〇回	機械職種	〇位				
技能五輪全国大会入賞歴								

調書（２）一般

(様式3の3)

	職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	ぎのう しゅういち
	5	電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	被推薦者氏名	技能 秀一

都道府県番号欄 ほか自動で入力される（調書（３）（４）も同様）。

過去5年の推薦回数欄

被推薦者が、過去5年において卓越した技能者の表彰について厚生労働大臣に推薦された年度を記入するとともに、その推薦回数の合計を記入すること。なお、被推薦者が過去5年で初めて推薦される場合は計0回と記入すること。

過去の5年の推薦回数		推薦者の所属先	〇〇〇〇 〇〇長
令和3	年度	推薦者氏名	推薦 太郎 TEL 000-000-0000
令和2	年度	〒	住所：都道府県 住所：市区町村以下
平成29	年度	000-0000	〇〇県 〇〇市〇〇町〇〇〇-〇-〇 〇〇マンション〇〇号室
	年度	賛同者①の所属先	〇〇
	年度	賛同者①氏名	賛同 一郎 TEL 00-0000-0000
計	3	〒	住所：都道府県 住所：市区町村以下
	回	000-0000	〇〇県 〇〇市〇〇町〇〇〇-〇-〇 〇〇アパート〇号室
		賛同者②の所属先	なし
		賛同者②氏名	同石 照人 TEL 090-0000-0000
		〒	住所：都道府県 住所：市区町村以下
		000-0000	△△県 △△郡〇〇村〇〇〇-〇
		(推薦理由) 電子分野の試作品製作における「はんだ付け」を始め、試作品の完成されるまでに必要な電子回路技術、組付技能、計測・評価技能などの電子機器組立に関する技能に卓越している。その技能を活かして、宇宙産業機器や自動車用電子制御製品、ITS製品などの多くの試作を担当し、製品化まで導いた。また、幾多の改善による生産性及び品質の向上や、職場安全に寄与するとともに、多くの後進技能者の指導・育成に貢献した。以上のことから本被推薦者は、電子機器組立に関する優れた技能を伝承するなど、多くの実績があるため推薦する。	

推薦者および推薦理由欄
推薦者、賛同者①および賛同者②の住所、電話番号及びその推薦理由を記入すること。ただし、推薦者、被推薦者及び2人の賛同者は互いに二親等以内（配偶者を含む。）の親族関係になく、かつ、推薦者および2人の賛同者は推薦日時時点で満20歳以上であること。

卓越した技能の概要欄

P.11 4. 「卓越した技能の概要」欄に記載の各項目を参照の上、記入すること。なお、一葉で記入することが困難な場合は、調書（３）（４）まで記載して差し支えない。

卓越した技能の概要			
技能の概要	功績・貢献の概要	後進指導育成の概要	現役性
電子分野の試作品製作に長年従事して培った知識・技能を有しており、特に下記の技能に優れている。 1. 高信頼性を保障する組立技能 電子機器組立の「はんだ付け」	1. 宇宙産業機器への貢献 人工衛星搭載用の低振動モータと宇宙環境測定装置の製作において、米国防空宇宙局の要求基準をクリアし、製品化を実現した。この技能は、現在運用中の国際宇宙ステーションの実験モジュール内で使用する真空ポンプ用	1. 電気・電子関係の国家検定に実技指導員として活躍し、これまでに〇〇名を合格させ、〇〇県技能競技大会において1位入賞者〇〇名を輩出した。 2. 技能五輪大会出場者の指導を通じ、工場よりこれまでに〇〇人	技能五輪選手を指導する後進の指導員や技能五輪選手の指導、現場管理に尽力している また、自ら電子機器組立工として、訓練課題の作製作業に日々従事している。

(様式4)

職業部門	第16部門	被推薦者氏名	技能 秀子	撮影年月日	令和4年11月3日
------	-------	--------	-------	-------	-----------

写真添付欄

直近1年以内の作業風景写真を必ず1枚以上添付すること。

【注意点1】

通常、該当職種で求められる安全面や衛生面に留意している作業風景写真を添付すること。

注意点1に合致しない写真例



調理中だが、
着帽せず、
髪も束ねて
いない

注意点1に合致する写真例



着帽して
いる

写真説明

地元産野菜を使い、調理をしている場面。

職業部門

第16部門

被推薦者氏名

技能 秀子

撮影年月日

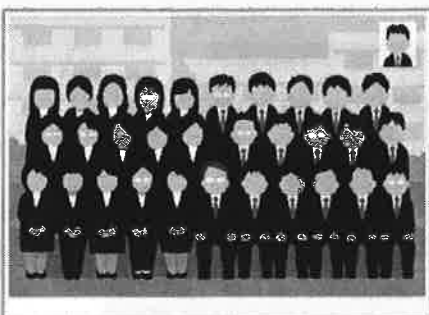
令和4年5月

写真添付欄

【注意点2】

後進指導育成が行われていることが分かる写真を添付すること。

注意点2に合致しない写真例



実際指導
を行った
のかどう
か写真で
は分から
ない

注意点2に合致する写真例



指導風景
の写真が
ある

写真説明

〇〇小学校等、計☆校の小学校に対し、体験料理教室を実施し、技能尊重の機運醸成に貢献。

(様式4)

職業部門	第9部門	被推薦者氏名	技能 秀雄	撮影年月日	令和4年11月3日
------	------	--------	-------	-------	-----------

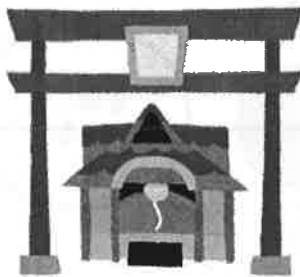
写真添付欄

直近1年以内の作業風景写真を必ず1枚以上添付すること。

【注意点3】

作品写真についても、現役性の担保のため、直近の写真を1枚以上提出すること。

注意点3に合致しない写真例



古い作品写真
しかない
(直近3年以内
に撮影した作
品写真がない)

注意点3に合致する写真例



直近3年
以内に撮
影した作
品写真が
ある

写真説明

〇〇年に修繕に携わった××神社。卓越した☆☆の技術が求められる。

職業部門	第9部門	被推薦者氏名	技能 秀雄	撮影年月日	令和4年5月
------	------	--------	-------	-------	--------

写真添付欄

【注意点4】

製品の中で用いられる部品等を製造している場合は、できれば最終的な製品においてどのように使われているのか記載してください。

注意点4に合致しない写真例



最終的に
どのように
用いられて
いるのか分
かりづら
い

注意点4に合致する写真例



最終的に
どのように
用いられて
いるのか分
かる

〇〇氏の製品をここで使用

写真説明

〇〇年に修繕された神社の▲▲の製造に深く携わる。卓越した☆☆の技術が求められる。

必ず記載すること。

(様式5)

専門用語集 (例)

用語	ふりがな	内 容
<ul style="list-style-type: none"> 卓越した技能者の表彰 	<ul style="list-style-type: none"> たくえつしたぎのうし ゃのひょうしょう 	<ul style="list-style-type: none"> 卓越した技能者の表彰制度は、厚生労働大臣が我が国の最高水準にある優れた技能者を表彰することにより、技能労働尊重の気運を高め、技能者の地位及び技能水準の向上を図るとともに、青少年が誇りを持って技能者になろうとする社会的基盤を築こうとするものである。
<ul style="list-style-type: none"> ○○○ 	<ul style="list-style-type: none"> △△△△ 	<ul style="list-style-type: none"> ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。
<ul style="list-style-type: none"> □□ <p>.....</p>	<ul style="list-style-type: none"> △△△△△ <p>.....</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <p>.....</p>

※必要に応じ画像や図表を添付してもよい。ただし、本ファイルを含む推薦書類の合計サイズが被推薦者1人につき指定された容量以内となるよう、適宜トリミング部分の削除や不鮮明にならない範囲での画像圧縮等を行うこと。

※提出書類中に解説を要する専門用語が1つも無い場合は「無し」と記入し提出すること。ただし、その場合は本当に解説が必要な用語が1つも無いかよく確認すること。

(記載例)

(様式6の1)

推薦理由書

1. 被推薦者

ふりがな 氏名	ぎのう しゅういち	男 ・ 女	生年月日	
	技能 秀一		明大 昭平	31年12月10日 (65歳)
現住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇号		TEL〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	

令和5年11月1日現在の満年齢を記入すること。

2. 推薦者の推薦理由 (具体的に記入すること。)

技能秀一氏は、昭和〇〇年〇〇会社に〇〇工として入社し、以降終始〇〇〇の製造の業務に従事し、その間技能の研さんに努めて精励し、次のごとく卓越した技能を有し幾多の考案、改善によって生産能率の増進に貢献するとともに後進技能者の指導育成に尽くしたものであるが、特に〇〇〇の技能については業界における第一人者といわれている。

1. 〇〇〇の技能

2. 功績・貢献〇〇〇の考案
昭和〇〇年〇月の・・・

3. 後進の指導育成

被推薦者・推薦者・2名の賛同者は互いに二親等以内の親族ではないこと。

推薦書提出年月日時点の満年齢を記入すること。なお、推薦者および2名の賛同者は満20歳以上であること。

3. 推薦者の氏名等

ふりがな 氏名	△△△△ △△△△	男 ・ 女	年 齢	推薦書提出年月日
	△ △ △ △		満〇〇歳	令和〇〇年〇〇月〇〇日
主要経歴	1 自営業 2 会社経営者 3 会社員	4 団体職員 5 公務員 6 主婦	性別・主要経歴欄はそれぞれあてはまるものを囲むこと。	被推薦者との関係 会社の上司
現住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇号		TEL〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 FAX〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 E-mail〇〇〇〇〇	携帯番号など日中に必ず連絡がつく番号を記載すること。

4. 推薦者の署名

私は、以下に続く2名の賛同を得て、上記推薦理由により、技能秀一氏を卓越した技能者の表彰の候補者としてふさわしい者として推薦します。

署名 _____

以下、賛同者①の項目に続く。

(記載例)

(様式6の2)

賛同理由書①

1. 被推薦者及び推薦者

被推薦者		推薦者	
ふりがな 氏名	ぎのう しゅういち 技能 秀一	ふりがな 氏名	△△△△ △△△△ △ △ △ △

2. 賛同者①の賛同理由 (具体的に記入すること。)

技能秀一氏は、〇〇における技能に卓越し、〇〇技術の開発に多大な貢献をした。さらに技能者の育成に尽力するなど、〇〇業界における技能振興を牽引してきた。
また、・・・

被推薦者・推薦者・2名の賛同者は互いに二親等以内の親族ではないこと。

推薦書提出年月日時点の満年齢を記入すること。なお、推薦者および2名の賛同者は満20歳以上であること。

3. 賛同者①の氏名等

ふりがな 氏名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇 〇〇	男 女	年齢 満〇〇歳	推薦者との関係 会社の部下 被推薦者との関係 会社の同僚
現住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇号		TEL〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	

性別欄はあてはまるものを囲むこと。

携帯番号など日中に必ず連絡がつく番号を記載すること。

4. 賛同者①の署名

私は、△△△△氏が、技能秀一氏を卓越した技能者の候補者としてより賛同します。

署名 _____

以下、賛同者②の項目に続く。

(記載例)

(様式6の2)

賛同理由書②

1. 被推薦者及び推薦者の氏名

被推薦者		推薦者	
ふりがな	ぎのう しゅういち	ふりがな	△△△△ △△△△
氏名	技能 秀一	氏名	△ △ △ △

2. 賛同者②の賛同理由 (具体的に記入すること。)

技能秀一氏は、〇〇における技能に卓越し、大学等と連携し〇〇の品質改良を長年にわたって研究した結果を活かし、〇〇を開発し商品化に実現した。業界全体の効率化を推進するとともに若年技能者の技能の向上を図る研修会に積極的に携わり、技能向上に貢献した。

被推薦者・推薦者・2名の賛同者は互いに二親等以内の親族ではないこと。

推薦書提出年月日時点の満年齢を記入すること。なお、推薦者および2名の賛同者は満20歳以上であること。

3. 賛同者②の氏名等

ふりがな	〇〇〇〇 〇〇〇〇	性別欄	男・女	年齢	満〇〇歳	推薦者との関係	会社の部下
氏名	〇〇 〇〇	性別欄	男・女	年齢	満〇〇歳	推薦者との関係	被推薦者との関係
現住所	〒〇〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇号	TEL	TEL〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	推薦者との関係		推薦者との関係	会社の同僚

性別欄はあてはまるものを囲むこと。

携帯番号など日中に必ず連絡がつく連絡先を記載すること。

4. 賛同者②の署名

私は、△△△△氏が、技能秀一氏を卓越した技能者の候補者として推薦すより賛同します。

署名

(推薦書：参考様式)

文書番号
令和 年 月 日

長野県知事 へ

推薦者
職・氏名

令和5年度卓越技能者厚生労働大臣表彰に係る推薦について

標記について、下記の被推薦者は、「卓越した技能者」としてふさわしい技能者であると認められますので、関係書類を添えて推薦いたします。

記

1 被推薦者 氏名

2 事務担当者

所 属

職 氏 名

住 所 (〒 -)

電話番号

F A X

Eメール

調書（１）都道府県

(様式 3 の 1)

令和5年11月1日 現在

都道府県番号	-	推薦都道府県名	職業部門番号	職種名（１）	職種名（２）	氏名・現就業先事業所名の外字		
ふりがな		性別	職歴			在職期間（年月日）		在職年月数
氏名								
生年月日		年齢						
現住所								
〒								
都道府県								
市区町村								
TEL								
就業地								
事業所名								
事業所全体の従業員数								
所在地								
〒								
都道府県								
市区町村								
TEL								
					在職期間 計			
					重複期間を除く在職期間 計			
現職については、令和5年11月1日をもって終期とすること。								
表彰歴		有無	表彰の概要				取得年月	
	大臣表彰							
	知事・行政機関の局長表彰							
	全国レベルの業界団体表彰							
	その他							
免許・資格等		有無	免許・資格等の概要				取得年月	
	職業訓練指導員免許							
	技能検定委員							
	特許・実用新案等							
大会入賞歴等		認定年度	業種	職種	技能検定	技能士の名称	取得年月	
	高度熟練技能者							
	ものづくりマイスター							
	全技連マイスター							
		開催回	参加職種	順位				
	技能グランプリ							
	技能五輪国際大会入賞歴							
	技能五輪全国大会入賞歴							

調書（２）都道府県

(様式 3 の 1)

都道府県番号	都道府県名	職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	0
-	0	0	0	0	被推薦者氏名	0
過去の 5 年の推薦回数		推薦者及び推薦理由	(所在地又は住所)			
年度			〒			
年度			都道府県			
年度			市区町村			
年度			(推薦都道府県知事名) TEL			
年度						
計	回					
推薦順位等			(推薦理由)			
選考対象者総数						
推薦総数						
推薦順位						
卓越した技能の概要						
技能の概要		功績・貢献の概要		後進指導育成の概要		現役性
?						

調書（3）都道府県

(様式3の1)

都道府県番号	都道府県名	職業部門	職種名（1）	職種名（2）	ふりがな	0
-	0	0	0	0	被推薦者氏名	0
卓越した技能の概要（続き）						
技能の概要		功績・貢献の概要		後進指導育成の概要		現役性

(様式4)

職業 部門		被推薦 者氏名		撮影 年月日	
----------	--	------------	--	-----------	--

写真添付欄

写真添付の際の留意事項（本様式使用の際は本記述を削除してから写真を添付すること。）

- ・審査委員会での審査の参考とするため、調書（2）～（4）に記載した技能・功績等が具体的に分かる作品の写真や作業風景等の写真を「写真添付欄」内に添付し、写真の内容についての説明を「写真説明」欄に簡潔に記入すること。なお、各調書の内容と関連性が低いと審査委員会で判断された写真は、審査の参考とはしない可能性があることに留意されたい。
- ・被推薦者本人と分かる直近1年以内に撮影された作業風景の写真を最低1枚以上添付すること。
- ・写真の枚数に制限はないが、写真様式は計10枚以内とすること。写真は必ず写真添付欄内に収め、本ファイルを含む推薦書類の合計サイズが被推薦者1人につき指定された容量以内となるよう、適宜トリミング部分の削除や不鮮明にならない範囲での画像圧縮等を行うこと。
- ・本様式のレイアウト変更（各欄の場所移動やサイズの変更等）はしないこと。
- ・改善事案等の功績を記載する場合、写真に代えて図表を添付しても差し支えない。

写真 説明	
----------	--

職業 部門		被推薦 者氏名		撮影 年月日	
----------	--	------------	--	-----------	--

写真添付欄

写真 説明	
----------	--

(様式4)

職業 部門		被推薦 者氏名		撮影 年月日	
----------	--	------------	--	-----------	--

写真添付欄

写真添付の際の留意事項（本様式使用の際は本記述を削除してから写真を添付すること。）

- ・審査委員会での審査の参考とするため、調書（2）～（4）に記載した技能・功績等が具体的に分かる作品の写真や作業風景等の写真を「写真添付欄」内に添付し、写真の内容についての説明を「写真説明」欄に簡潔に記入すること。なお、各調書の内容と関連性が低いと審査委員会で判断された写真は、審査の参考とはしない可能性があることに留意されたい。
- ・被推薦者本人と分かる直近1年以内に撮影された作業風景の写真を最低1枚以上添付すること。
- ・写真の枚数に制限はないが、写真様式は計10枚以内とすること。写真は必ず写真添付欄内に収め、本ファイルを含む推薦書類の合計サイズが被推薦者1人につき指定された容量以内となるよう、適宜トリミング部分の削除や不鮮明にならない範囲での画像圧縮等を行うこと。
- ・本様式のレイアウト変更（各欄の場所移動やサイズの変更等）はしないこと。
- ・改善事案等の功績を記載する場合、写真に代えて図表を添付しても差し支えない。

写真 説明	
----------	--

職業 部門		被推薦 者氏名		撮影 年月日	
----------	--	------------	--	-----------	--

写真添付欄

写真 説明	
----------	--

(様式5)

専門用語集

用語	ふりがな	内 容

※必要に応じ画像や図表を添付してもよい。ただし、本ファイルを含む推薦書類の合計サイズが被推薦者1人につき指定された容量以内となるよう、適宜トリミング部分の削除や不鮮明にならない範囲での画像圧縮等を行うこと。

※提出書類中に解説を要する専門用語が1つも無い場合は「無し」と記入し提出すること。ただし、その場合は本当に解説が必要な用語が1つも無いかよく確認すること。

